

《担当者名》 松尾淳司 山崎智弘

【概 要】

感染症は古くからその存在が知られてきたものの、現代社会においても人類は未だその脅威から逃れることができていない。またSARS、トリインフルエンザ、SFTSなどの新しい感染症が発見されたこともあり、これら感染症が一旦大流行すると、パニックが発生するなど容易に社会問題となりうる。そのため、医療従事者は感染症について正しく理解し、日頃よりその対策に努めなければならない。本講義では、ヒトに感染症を引き起こす細菌、真菌、ウイルス、プリオンについて、分類、性状、病態、およびその検査法について学ぶ。

【学修目標】

- 1) 臨床検査に必要な知識と技術を習得するために、臨床微生物学の概要を理解する。
- 2) 細菌の種類を挙げ、グラム染色性やその概要を説明できる。
- 3) 抗酸菌、偏性嫌気性菌の種類を挙げ、その概要を説明できる。
- 4) 特殊な細菌（マイコプラズマ、偏性細胞内寄生細菌）の種類を挙げ、その概要を説明できる。
- 5) 真菌の種類を挙げ、その概要を説明できる。
- 6) ウイルスの種類を挙げ、その概要を説明できる。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|----|--------------------------------|--|------|
| 1 | オリエンテーション グラム陽性球菌1 | ・講義概要 ・スタフィロкокカス属 ・ストレプトкокカス属 教科書：p107-117 | 松尾淳司 |
| 2 | グラム陽性球菌2 グラム陰性球菌 | ・エンテロкокカス属 ・ナイセリア属、モラクセラ属 教科書：p118-126 | 松尾淳司 |
| 3 | グラム陰性桿菌1 | ・腸内細菌科1 教科書：p127-149 | 山崎智弘 |
| 4 | グラム陰性桿菌2 | ・腸内細菌科2 教科書：p127-149 | 山崎智弘 |
| 5 | グラム陰性桿菌3 | ・ブドウ糖非発酵菌 教科書：p169-174 | 松尾淳司 |
| 6 | グラム陰性桿菌4 グラム陰性らせん菌 | ・ビブリオ属、エロモナス属、ヘモフィルス属 ・ボルデテラ属、フランシセラ属 ・レジオネラ属、コクシエラ属 ・カンピロバクター属、ヘリコバクター属 教科書：p150-167、p175-188 | 松尾淳司 |
| 7 | 抗酸菌 | ・マイコバクテリウム属 ・ノカルジア属 教科書：p197-207 | 山崎智弘 |
| 8 | グラム陽性桿菌 | ・バシラス属 ・リステリア属、コリネバクテリウム属 教科書：p189-196 | 松尾淳司 |
| 9 | 偏性嫌気性菌 | ・偏性嫌気性菌とは ・バクテロイデス属 ・クロストリジウム属 教科書：p208-231 | 山崎智弘 |
| 10 | スピロヘータ マイコプラズマ 偏性細胞内寄生細菌 | ・トレポネーマ属、レプトスピラ属 ・マイコプラズマ属、ウレアプラズマ属 ・リケッチア属、クラミジア属 教科書：p232-248 | 松尾淳司 |
| 11 | 真菌1 | ・真菌の形態、分類 ・抗真菌薬の種類とその特徴 教科書：p65、p250-254 | 松尾淳司 |

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|----|---------------|--|------|
| 12 | 真菌2 | <ul style="list-style-type: none"> ・酵母用真菌（カンジダ属、クリプトコックス属） ・糸状菌（アスペルギルス属、接合菌） ・二形性真菌 ・真菌症の検査 教科書： p255-279 | 松尾淳司 |
| 13 | ウイルス1 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウイルスの形態と分類 ・抗ウイルス薬の種類とその特徴 教科書： p66、p282-288 | 山崎智弘 |
| 14 | ウイルス2 | <ul style="list-style-type: none"> ・DNAウイルス 教科書： p289-296 | 山崎智弘 |
| 15 | ウイルス3 プリオン | <ul style="list-style-type: none"> ・RNAウイルス ・プリオン 教科書： p297-315 | 山崎智弘 |

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験 80% 課題 20%

【教科書】

松本哲哉 編著「最新臨床検査学講座 臨床微生物学 第2版」 医歯薬出版 2023年

【参考書】

錫谷達夫 他 編著「標準微生物学 第15版」 医学書院 2024年

【備考】

クリッカーを使用し、学生の理解度を把握する。

Google Form を利用して学修課題を提示する。

【学修の準備】

教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。（80分）

講義で学修した部分について理解しておくこと。（80分）

【【ディプロマポリシーとの関連性】

（DP2）臨床検査に必要な知識と技術を習得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している